

『清和源氏のルーツ』を訪ねて

企画委員会

満願寺は、奈良時代に聖武天皇の勅願によって創建され、その後平安時代に源満仲が帰依し、源氏一門の祈願所として栄えた清和源氏のルーツとされています。また多田神社は、源満仲・頼光・頼信・頼義・義家の五公をお祀りする神社です。

暑い時期ですので、今回は移動を少なくし、1ヶ所で詳しい説明を聞くような企画にしました。



満願寺



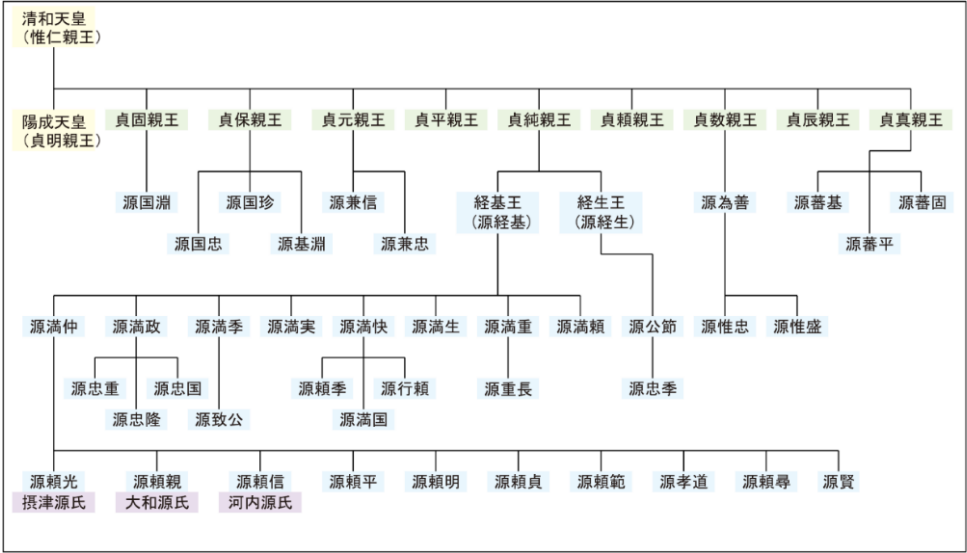
多田神社

- ① 実施日 2022年7月8日（金）
- ② 集合場所 阪急宝塚線 **雲雀丘花屋敷駅 東改札口前のバス乗場**（愛宕原ゴルフ場行）
- ③ 集合時間 1班・2班：午前10時10分 ⇒ 10時16分発のバスに乗車（満願寺下車）
3班・4班：午前10時40分 ⇒ 10時46分発のバスに乗車（満願寺下車）
- ④ 行程 バス下車・満願寺山門下広場で挨拶
満願寺 ⇒ 昼食 ⇒ 多田神社 ⇒ 能勢電鉄多田駅（解散）
- ⑤ 費用 **400円（入山料+金堂拝観料）の個人負担**をお願いします
- ⑥ 中止条件 前日17時の気象庁天気予報で「**兵庫南部**」の午前または午後の降水確率が**50%以上**で中止とします
- ⑦ 持参するもの 弁当・飲料・雨具 など。
- ⑧ ガイド 「川西市文化財ボランティアガイドの会」の皆さん、各班2人で計8人の予定
- ⑨ その他
 - ・飲料など十分な暑さ対策・熱中症対策をお願いします
 - ・バスはPiTaPa・ICOCA等使用できます
 - ・満願寺周辺ではお弁当は買えません
 - ・満願寺～多田神社間にトイレはありません（一部山道で約1時間）
- ⑩ 班別行程
 - <1・2班>
満願寺山門（10：30）⇒昼食（11：45）⇒出発（12：15）⇒多田神社到着（13：15）⇒多田神社出発（14：20）⇒多田駅到着（14：40）
 - <3・4班>
満願寺山門（11：00）⇒昼食（12：15）⇒出発（12：45）⇒多田神社到着（13：45）⇒多田神社出発（14：50）⇒多田駅到着（15：10）
 - 満願寺内容（金堂・毘沙門堂・石塔群・金時の墓・観音堂・本坊・道標など）
 - 多田神社内容（南大門・清和源氏系図・宝物殿・随神門・拝殿・本殿・御廟・釈迦堂など）

<清和源氏>

源氏には祖とする天皇別に21の流派（源氏二十一流）があり、清和源氏はそのうちのひとつで清和天皇から分かれた氏族である。清和天皇の皇子のうち4人、孫の王のうち12人が臣籍降下して源氏を称した。中でも第六皇子貞純親王の子・経基王（源経基）の子孫が著しく繁栄した。その子孫は嫡流が源氏将軍や足利将軍家として武家政権を主宰したほか、一門からも守護大名や国人が出た

＊清和天皇（56代／平安時代／858～876年）



<満願寺>

奈良時代に聖武天皇の勅願によって勝道上人が日本全国に「満願寺」を創建することになった。川西の満願寺は、そのうちの摂津国満願寺であるとされる。

平安時代中期には多田院を創建した源満仲が帰依し、以来源氏一門の祈願所として栄え、やがて多田三山の一院となった。

鎌倉時代の正忠2年（1325年）には後醍醐天皇によって勅願所となり、室町時代に入ってから源氏一門である足利将軍家の祈願所となって49の子院が存在していた。しかし、戦国時代になると兵火にあって衰微してした。

山門にある仁王像は多田院が神仏分離によって多田神社になった際に当寺に移された多田院南大門の仁王像である

<多田神社>

多田神社は天禄元年（970年）に創建され、元多田院とも、また、多田大権現社とも言われ、明治の神仏分離令により多田神社となった。

御祭神の源満仲・頼光・頼信・頼義・義家の五公をお祀りする神社。源氏発祥の地である多田は、源満仲が摂津国一の宮住吉大神の御信託を受けてこの地に館を構え、荘園開発および武士団を構築した。子孫である清和源氏一門は繁栄を重ね、鎌倉・室町・江戸と700年にわたる武家社会の担い手となった。

- ・源満仲 神号「正一位 多田大権現」六孫王源経基の長男
- ・源頼光 酒吞童子討伐や土蜘蛛退治の伝説などで広く知られる
- ・源頼信 満仲の三男。晩年、河内守を務めた後に同国に地盤を築き河内源氏の祖となった
- ・源頼義 頼信の長男。前九年の役を平定したことにより東国における源氏の名声を確認した
- ・源義家 頼義の長男。「八幡太郎」の通称が広く知られる。後三年の役を平定した